

NAGOYA CITY UNIVERSITY  
ARCHIVES OF THE UNIVERSITY HISTORY

## NCU Histreet

2023  
March

002

## 学長ご挨拶

学長  
浅井 清文

名古屋市立大学の卒業生・在校生・教職員が待ち望んだ「大学史資料館」が開館され2年半近くが経ちました。皆様、山の畑会館(学生会館)に足を運んでいただきましたでしょうか。では私から質問です。

質問1 「10月28日は、名古屋市立大学にとってどのような日でしょうか。」答えは、「開学記念日」。私が学部学生の頃は、10月28日は全学部講義がなく、学生は誰もが開学記念日を認識していましたが、近年はカリキュラムの編成上休日にするのは難しく、申し訳なく感じているところです。

質問2 「では、なぜ、10月28日が開学記念日になったのでしょうか。」もし、分かなければ、答えを探しに大学史資料館を訪

れてみてください。

私からは、大学ホームページの「名古屋市立大学70周年史特設サイト」で知識を得ながら大学史資料館の資料をみることをお勧めしたいと思います。いつも何気なく過ごしているキャンパスも、その歴史を知ることによって、きっと、新たな発見があることでしょう。

この先、名古屋市立大学はキャンパス再編など、大きな変革の時期を迎えます。そのような中で、大学史資料館の存在は、卒業生・在校生・教職員の心のよりどころとして、益々重要になると思います。さらなる発展を期待しております。

## 展示品の紹介

## 中西栄作氏退職記念胸像

こちらは、昭和36(1961)年に中西氏が名古屋市立大学を定年退職された際に、退職を記念して作成された胸像です。



中西栄作氏(1899~1965年)は、岐阜県大野郡丹生川村(現高山市丹生川町)の生まれで、東京高等師範学校、東京帝国大学理学部数学科を卒業し、大正13(1924)年、東京帝国大学卒業とともに、第八高等学校の数学の講師に就任し、10か月後に教授に昇任され、以後、第八高等学校教授として活躍されました。昭和25(1950)年、名古屋市立大学教養部教授に就任すると、昭和25(1950)年4月5日から昭和36(1961)年4月1日まで、初代教養科長、次いで初代教養部長を務められました(昭和30(1955)年3月31日まで教養科長)。昭和36(1961)年、名古屋市立大学を定年退職し、名古屋市立大学名誉教授となり、同年より昭和40(1965)年3月15日まで、名古屋市立女子短期大学学長を務められました。



中西氏はスポーツを愛し、愛知大学野球連盟の副会長や東海大学バレーボール連盟会長を務めるなど、東海地方の学生スポーツの振興に多大なる貢献をされました。また、ご自身も学生や教職員らと一緒にソフトボールをするなど、多くの人に慕われた方でした。

## 大学史資料館館長コラム



大学史資料館館長  
人間文化研究科 教授  
阪井 芳貴

開館三年目を迎える大学史資料館ですが、目下の課題は二つです。ひとつ目は、所蔵する資料の保存と活用のノウハウを確立することです。現在資料館に展示されている資料は、所蔵する資料の一部に過ぎませんし、開館以来、市大関係者から資料の寄贈を受け、今後も増えることが予想されます。資料館の充実のために必要なそれらの整理作業だけでも、かなりの時間と労力を要しますし、人材と予算の確保も大きな課題です。我が資料館は、まだその緒に就いたばかりといっても過言ではありません。

二つ目は、資料館の認知度を高め、来館者を増やすことです。私は、自らが担当するいくつかの科目で履修者たちに資料館の見学とレポート作成を課しています。そのレポートを読むと、学生たちにまだまだ資料館の存在すら認知されていないことがうかがわれます。また、見学後には多くの学生が名市大の歴史を知ることができて良かったと述べています。まずは、地道に認知度を上げる努力が必要だと思っています。この「ヒストリート」の役割はとても大きいのです！

## 名古屋市立大学の沿革・2 ～名古屋市立大学総合大学化への道のり～

名古屋市立大学は昭和25(1950)年の開学時から将来の総合大学化が期待されていたため、名古屋市は「名古屋市立大学総合化計画」を策定して総合大学化の道を模索の末、新学部創設を計画し、やがてそれが具体化されていきました。

まず、昭和33(1958)年10月に名古屋商工会議所が、「高遠なる理論と企業経営の実態を適度に密着せしめて、これを修得し、本市の産業経済に寄与せんとする人士の養成の如何に緊要なるかを痛感し」、「本地方商工業の今後の発展に対処するため」として、経営学部を新設することを、当時の名古屋市長小林橘川氏に要望しました。さらに3年後の昭和36(1961)年10月には、同じく名古屋商工会議所が、「南部臨海工業地帯の整備発展に伴い、重要産業の相次ぐ進出により、その産業構造は軽工業より、重化学工業へと高度化の一途を辿り、諸関連産業の増強と共にますます技術者不足の感を深くいたしており(中略)かゝる情勢に対処して技術者養成の機関を増強することが緊要である」として、工学部の設立も要望しました。

名古屋商工会議所からこれらの要望を受けた名古屋市は、昭和37(1962)年5月、名古屋市立大学総合化計画懇談会を開催して経営学部と工学部を新設する意向を示し、名古屋市立大学の総合大学化が本格的に進められることになりました。こうした経緯を経て、名古屋市総務局総務課が作成したのが、「名古屋市立大学総合化計画案」です。そこには、総合化の目的が次のように述べられています。

産業経済の著しい発展に同調し、企業の永続的な成長を確保するため、近時企業経営の改善特にその科学化、近代化が強調されており、また、めざましく進展する技術革新の時代に相応じ、科学技術及び理科教育振興の重要性が叫ばれ、現今これが専門的研究及び教育機関の整備拡充を要望する声がつよい。

また、昭和38年度から昭和40年度にわたり高等学校進学志望者が激増するが、これらが大学進学時期に至るとき、国民生活の向上にともなう大学進学率の逐年上昇の傾向からみて、大学進学志望者の急激な増加が予想される。

これらの情勢に鑑み、一大産業都市である本市として、医学及び薬学の両学部のみを有する市立大学を総合化し産業界の要望に応えるとともに、市民子弟の大学進学志望者の増加に対処し、もって本市の産業、教育、文化の向上に寄与せんとするものである。

こうした目的のもと、総合化の基本方針として、経営学部と工学部の新設計画が進められましたが、総合化計画は経営学部の新設を第一に進めて

いくこととなり、工学部設置計画が実現することはありませんでした。経営学部案は、その後の検討によって、昭和38(1963)年3月までに経済学部案に変更になり、昭和39(1964)年4月に経済学部の開設に至ります。

経済学部は学部設立の計画段階から、山の畑地区の名古屋大学の土地(現在の山の畑キャンパス)に置かれる予定でした。同地には第八高等学校を前身とする名古屋大学教養部が置かれていたため、同教養部が東山地区へ移転した後、名古屋市立大学がその跡地を取得する予定でした。山の畑キャンパスの取得については、川澄キャンパスと同様に、名古屋大学との土地建物の「交換」という方法をとりました。これは、名古屋市が名古屋大学教養部の土地とその建物等を譲り受ける代わりに、名古屋市の負担で東山地区に名古屋大学教養部の校舎および文学部・教育学部の校舎の一部を新設するというものでした。そのため、経済学部は昭和39(1964)年4月の開設時から、名古屋大学教養部が東山地区への移転を完了し、山の畑キャンパスに新校舎が完成する昭和42(1967)年3月までの3年間は、川澄キャンパスにあった旧名古屋大学経済学部(旧名古屋高等商業学校)の校舎を使用しました。

名古屋大学教養部は、昭和39(1964)年3月に東山地区に新築された校舎への移転を完了しました。昭和40(1965)年4月、名古屋市は名古屋大学から山の畑キャンパスを取得し、そこに経済学部の校舎、教養部の校舎、図書館分館の建設を開始しました。そして昭和42(1967)年4月、新校舎が完成し、経済学部は山の畑キャンパスへ移転し、今日に至ります。



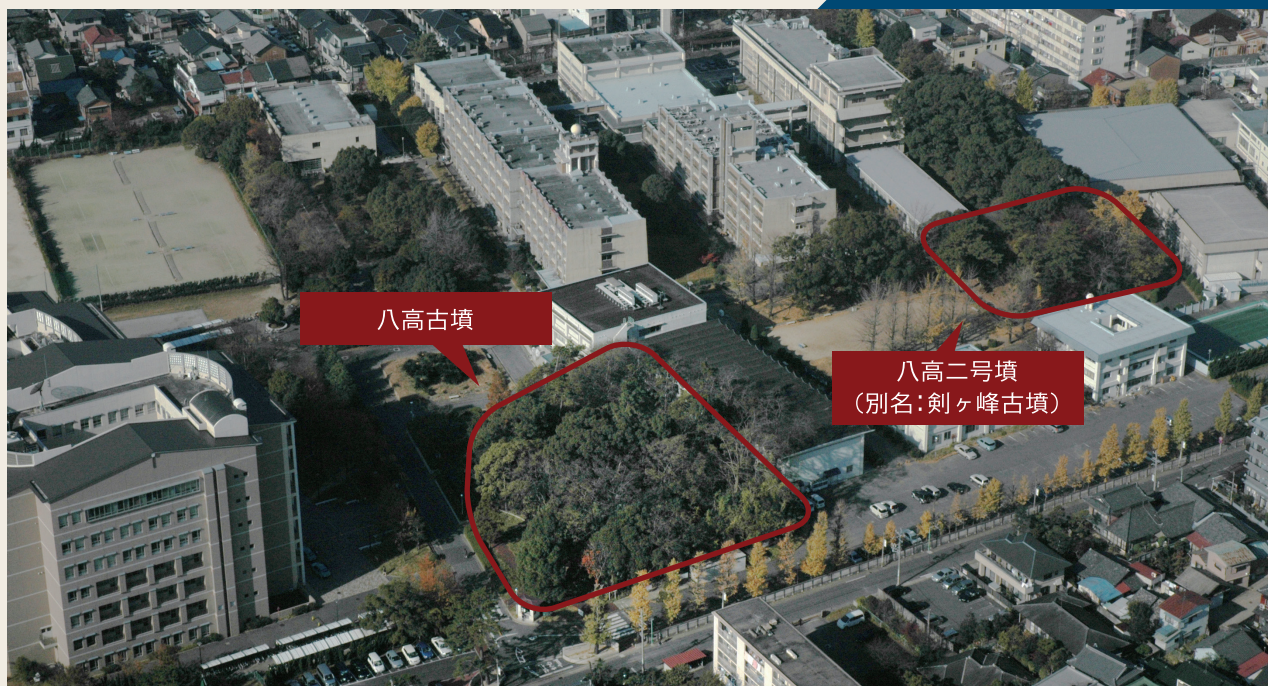
山の畑キャンパス正門(「名古屋市立大学20年の歩み」より)



山の畑キャンパス経済学部校舎

## 知っていますか？八高古墳

名古屋市立大学滝子キャンパス



本学の滝子キャンパス構内に、古墳が2基築造されていることをご存知でしょうか？今回は、そのうちの八高古墳についてご紹介します！

八高古墳は、4世紀後半に築かれたとされる前方後円墳です。平成元(1989)年に名古屋市教育委員会が発掘調査を行った結果、鱗付円筒埴輪、家形埴輪、壺形埴輪、蓋形埴輪が見つかるなど、その歴史的意義が認められ、古墳の一部が残されています。名前の由来は、もともと旧制第八高等学校(現名古屋大学)があったことから八高古墳と名づけられました。

八高古墳は本来約70mの規模でしたが、現在では前方部前端側が切断・削平されており、また、後円部北側は学生会館建築のために切り崩されたため、現存長は約45mとなっています。

東門から入構してすぐ、大学史資料館に隣接しています

ので、大学史資料館にお越しの際は、ぜひ見学してみてください！



平成元年の調査で出土した埴輪片(大学史資料館にて展示中)

参考文献：藤井康隆「名古屋台地古墳時代の基礎資料(6)」  
『名古屋市見晴台考古資料館研究紀要』第5号,2003



取材当日の様子

## 八高古墳が取材されました

令和4(2022)年8月17日、中日新聞の大学生スタッフによる大学紹介の記事に「八高古墳」が取り上げられ、大学史資料館前館長である吉田一彦特任教授が取材に応じました。取材には中日新聞社の記者をはじめ、本学学生以外にも、他大学の学生記者も訪れました。

多くの質問が飛び交う活発な取材となり、吉田特任教授の八高古墳の歴史に関する説明に、皆真剣に聞き入っていました。

## 「名古屋市立大学大学史資料館シンポジウム」を開催しました

令和5(2023)年2月19日(日)に、大学史資料館シンポジウムをオンラインにて開催しました。

はじめに、堀田慎一郎東海国立大学機構大学文書資料室特任助教に「過去・現在・未来をつなぐ大学アーカイブズ」と題し、本学の公文書が「行政文書」であり、その中には、「歴史公文書」として保存が必要となる文書があるということを踏まえ、本学の公文書管理や大学史資料館の今後のあり方についてご講演いただきました。

続いて、阪井芳貴本学大学史資料館館長・人間文化研究科教授がコーディネーターを務め、パネリストに堀田慎一郎氏、瀬川貴文名古屋市博物館学芸課長、山田美香本学人間文化研究科教授をお迎えし、「名古屋市教育史と大学史資料館」と題したパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、瀬川氏より名古屋市博物館における資料収集の実例をもとに、収集アーカイブズとしての視点のお話をいただき、また、「歴史公文書」の判定基準に関してや、今後本学大学史資料館に求められる大学アーカイブズとしての役割についてなど、意見交換を行いました。

当日は本学の在学生・卒業生・教職員をはじめ、他大学や一般の方など多数の方がご参加くださり、質疑応答では多くのご質問をいただくなど、非常に活発なシンポジウムとなり盛況のうちに幕を閉じました。

本シンポジウムの動画は<https://www.nagoya-cu.ac.jp/archives/>にて公開しておりますので、ぜひご覧ください。



### 利用のご案内

#### ■開館時間 / Opening hours

平日 9:00~17:00 / Weekdays 9:00-17:00

#### ■滝子キャンパスまでのアクセス図 / Direction to Takiko Campus



#### ■名古屋市立大学 大学史資料館への行き方 / Campus Map



〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1 名古屋市立大学 滝子キャンパス学生会館2階  
1, Yamano-hata, Mizuho-cho, Mizuho-ku, Nagoya-city, 467-8501  
Nagoya City University Takiko Campus

### ACCESS

#### ■地下鉄 / Subway

- 桜通線「桜山」駅下車5番出口より徒歩12分  
12 min on foot from Exit 5 of "Sakurayama," Sakura-dori Line

#### ■市バス / City Bus

- 金山駅 金山7番のりばより 金山11・12・16「滝子」下車  
Take "Kanayama Route 11, 12 or 16" bus at Kanayama Depot 7, and get off at "Takiko."
- 金山駅 金山8番のりばより 金山14(桜山経由)「滝子」下車  
Take "Kanayama Route 14 (via Sakurayama)" bus at Kanayama Depot 8, and get off at "Takiko."